

1	日	礼拝式・聖餐式（永松師）	16	月	
2	月		17	火	
3	火		18	水	
4	水	祈禱会	19	木	祈禱会
5	木		20	金	
6	金		21	土	
7	土		22	日	礼拝式（奨励：T 姉）
8	日	礼拝式（奨励：Y 兄）	23	月	
9	月・祝	スポーツの日	24	火	
10	火		25	水	祈禱会（月報印刷と発送は次週）
11	水		26	木	
12	木	祈禱会	27	金	
13	金		28	土	礼拝式（証し：スディルゴ師） 秋の教会交流会
14	土		29	日	
15	日	礼拝式（塩崎師・水島教会）	30	月	
			31	火	

10月お誕生・洗礼記念日の皆様おめでとうございます。（敬称略）

編集後記

- ◇ ラジオで「心の低温やけど」という言葉を聴いてずっと気になっています。低温やけどは、冬に就寝中、湯たんぽなどに長時間触れ知らず知らずのうちに深いやけど（火傷）になることが知られています。
- ◇ 心も低温やけどをすると聞き、考えさせられています。体のやけどと同じく、熱い、痛い、と感じた時点では、かなりダメージが深く治療に時間がかかる・・・。
- ◇ 心の成分は言葉なので、やけども言葉が原因？ 人から言われる言葉はもちろん、自分が発する言葉も自分の耳が聴くので相手ばかりでなく自分の心にも影響あり。
- ◇ 新約聖書でパウロが書いています。『聞く人に恵みが与えられるように、その人を造り上げるのに役立つ言葉を、必要に応じて語りなさい』エフェソ4章29節

教会月報

2023年 10月

No.389

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

どう生きるのか

やがて食事が前に並べられたが、その人は言った。「用件をお話しするまでは、食事をいただくわけにはまいりません。「お話しください」とラバンが答えると、その人は語り始めた。「わたしはアブラハムの僕でございます。主がわたしの主人を大層祝福され～略～」 こういうわけで、わたしは、今日、泉の傍らにやって来て、祈っておりました。「主よ、わたしがたどってきたこの旅の目的を、もしあなたが本当になんかえてくださるおつもりなら～略～」 ラバンとベトエルは答えた。「このことは主の御意志ですから、わたしどもが善し悪しを申すことはできません。リベカはここにおります。どうぞお連れ下さい。主がお決めになったとおり、御主人の御子息の妻になさってください。」
創世記 24章33～67節より

私たちは常に何らかの選択、決断をしながら生きている。信仰者も同様だが、その価値判断には、神が私たちがどう導いておられるのか、という視点が加わる。

イサクとリベカの話を読むと、彼らの価値判断の基準が主なる神にあることが伺える。主なる神の御旨が成ることを第一とした姿だ。信仰の決断は必ずしも平たんな道のりではないが、その歩みを通して、イサクは神がアブラハムにお与えになった大いなる祝福の約束を受け継ぐこととなった。

私たちも日々信仰の決断を下しながら歩む。そこで主イエス・キリストを信じる者としてどう生きるのか、が問われている。主イエスの導きを信じて、それが実現するよう希望をもって生きる者でありたい。

塩崎 悟史牧師(水島教会)～ 岡山教会9月17日礼拝説教要旨

この日の礼拝は、急きよ、水島教会とオンラインになり、水島の皆様とご一緒に礼拝を共にできた恵みに与りました。先生はこのあと、トンボ帰りで広島での地区聖会へ向かわれました。





9月10日(日)礼拝後、80歳以上を迎えられた兄姉(M姉、K兄、Y姉)を中心に、2019年以来4年ぶりの“会食を伴う会”を開催できました。17名の皆さまと一緒に「赤飯弁当」やデザートを楽しむことができました。記念品贈呈のあとはスピーチ。

松本姉：長寿の会に出席できた幸いと、イザヤ書46章4節からの証しをされました。K兄：日めくりカレンダーを書き続け、時にはペンの色を替える楽しみもノートで披露されました。Y姉：84歳は人生のスピードが84キロ、など、日頃の証しや体調などを語ってくださいました。この日、礼拝奏楽デビューされたA姉の伴奏での全員賛美。そして最後に、永松師より祝辞、独唱、お祈りを頂きました。長寿の恵みを共に分かち合えた、実に楽しいひとときでした。(欠席された大田師、S姉、N兄、M姉、M兄には記念品を後日お渡し。)



2023年地区聖会レポート

9月17日(日)の午後7時前、会場である広島教会に到着。広島教会の皆様を迎えられ二階の会堂に。2019年以来久々の地区聖会。今回の聖会のテーマは『福音宣教』。

講師はこの4月に理事長に就任された土肥努師を御迎えして2日間にわたる聖会が、広島教会聖歌隊のコーラスから始まった。参加者は初日が32名、二日目が51名(CS生徒含む)。塩崎師と野村師による講師紹介。お二人の神学校時代の心温まるエピソードに一同ほっこり。

土肥師の二回にわたる説教の詳細は永松先生の



講師：日本ナザレン教団理事長
土肥 努 師



聖会説教要旨

第1回「復活の主に出会う」聖書・マタイ福音書28:1-10

福音とは、主イエス・キリストが十字架で我らの罪を贖い救い出してくださいましたこと。また、死を味わわれたイエスは父なる神の手によって死より復活させられたのである。28:1以下では復活の主と出会う女性たちの姿が記されている。11弟子たちはイエスの十字架でつまづいた。安息日明けの日曜日朝早く、マグダラのマリアともう一人のマリア(イエスの母という説もある)が墓を見に行った。そこで地震が起こり、封印されていた石が転がされ墓に入ることができた。収められたイエスの姿なく呆然としていた時、天使が現れ告げられる。「恐れることはない・・・あの方は復活された」「弟子たちに告げよ、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。」と。彼女たちは恐れつつも喜びをもって弟子たちに伝えるのでした。神が女性たちに呼び掛けて下さる。復活されたイエス御自身から「おはよう」と声がかかり彼女たちはひれ伏します(これが礼拝式の原型ともいわれています)。

報告をお読み頂きたいと思いますが、土肥師の穏やかな口調ながら力強く語られたメッセージに心が震える。

18日(月・祝)の朝10時から2回目の聖会開始。呉教会聖歌隊の美しいコーラスも披露され、岡山教会でも聖歌隊復活を、との声あり。連日の土肥師の心が震えるメッセージを拝聴した後、CSの子供達の飛び入り賛美も披露されてその子供たちの歌声に元気を頂く。

18日午後は久々の地区壮年会を連合壮年会長である目黒教会のT兄をお迎えし行われ、対馬兄の6月のナザレン教団世界大会レポートや各教会での活動状況などを報告。宿題、課題を頂く。実に学びの多い地区聖会となった。

(文責 K.Y)



第2回「大いなる命令」聖書・マタイ福音書28:16-20

聖会の意義は同じ信仰共同体が同じ御言葉で信仰を確認する。現在の日本におけるキリスト教界はコロナ禍もあって教勢は伸び悩んでいる。そこでの解決策は福音宣教のみである。

十字架で死なれたイエスは、安息日(金曜日の夕方より土曜日の夕方まで)に入る前に急いで葬られた。翌日曜日朝早く、マリアたちが墓に着くと空の墓に驚きつつ天使の言葉を聞きます。彼女たちは復活の主と出会い弟子たちに伝言させられます。11弟子たちはガリラヤで主と出会います。彼らに全く新しい使命を与えられます。それは19節「あなた方は行って、全ての民をわたしの弟子にしてください。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなた方に命じておいたことをすべて守るように教えなさい。」「わたしは世の終わりまで。いつもあなたがたと共にいる。」と約束されたのでした。大宣教命令を受けてわたしたちはいかに歩むのでしょうか？ それは復活の主と共にあり、信仰共同体として宣教の使命に生きることであります。

(要約 永松 清師)

証し「主の加護」

KE姉

酷暑が続いている中、起床した時、顔の半分が腫れていた、そのうち痒痒くなり我慢ができず皮膚科へ。原因は草によるかぶれで塗り薬と服薬の処置で快方に向かった。その後十日程してハチに左指を刺された。まさに「泣きつ面に蜂」である。左手はグローブのように腫れ上がった。前後して温室で栽培しているシャインマスカットがアライグマか？小動物にやられてしまった。それも二百袋。今年のブドウは生育が良くして消毒摘房マイシン、二回のジベレリン(核なしにするため)とかなりの時間を要した。枝をなぎ倒し、味がついていない房を袋ごとちぎり、一方では房ごと食べていた。無残な痕だった。ハチに刺され、またブドウのショックも重なり、すっかり気弱になってしまった。自信を失くし、虚無的になっていた。祈ることもどうすることもできなくて、ただ二、三日呆然としていた。

そのうちこの御言葉が脳裏をかすめた。「疲れた者、重荷を負う者はだれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」(マタイ11:28)私は災難に遭う度に、この御言葉が浮かんでくる。

そうだ！神様に祈ろう！神様は悲しい時、苦しい時いつも隣にいて下さる。また楽しい時も然り。私は元気になる御言葉をノートに書いて繰り返し読みました。そして「信仰とは望んでいる事柄を確信し見えない事実を確認することです」(ヘブライ11:1)すると何かしら力が湧いてきました。

来年に向け、小動物対策、今までラジオやライトを使い嚇して試してみただけでも、なかなか難しい問題です。赤磐市の北部ではサルの出没で桃の対策で困っているとか、朝からサルの番をしているとか・・・色々耳にします。改めて考えると健康を与えられ、稲作りに必要な水を求めて、二十五キロの給水ポンプを軽トラに乗せて移動するのも事故もなく、守られて日々感謝である。主の前にへりくだりなさい。そうすれば、主があなた方を高めてくださいます。(ヤコブ4:10)御言葉通り謙虚でありたい。

